



令和6年6月28日（金）川崎市立西丸子小学校

## 七夕の願い事

川崎市立西丸子小学校 校長 筒井 愛子

近年では、「梅雨」という言葉から、「しとしと降る雨」ではなく、「豪雨」や「熱中症指数」の心配をするようになってしまいました。季節の風情を感じるより、危険回避という現実を考えざるを得ません。そんな蒸し暑さの中ですが、子どもたちにとっては、水泳の授業が始まり、嬉しい季節でもあります。運動会の経験が活かされているようで、どの学年の児童も、「かぶとむし」の約束をしっかりと守り、楽しそうに水泳学習に参加しています。

その運動会ですが、今年は近隣校との兼ね合いで、例年より1週間遅い開催となりました。直前まで諦めかけていたお天気でしたが、子どもたちの願いの込められた「てるてる坊主」のおかげか、当日は、文句なしの晴天でした。すでに1ヶ月が過ぎましたが、大勢の保護者の皆様、地域の皆様がたくさん応援してくださったおかげで、ご覧いただきましたように、その学年なりの最高のパフォーマンスが見事でした。遅ればせながら、皆様に心よりお礼申し上げます。当日の子どもたちの活躍を見ていますと、練習中からの一人一人の努力や苦勞のストーリーがあったことを思い、学校行事の大切さを痛感します。

先日の個人面談でも、そういった話題が多かったことと存じます。お忙しい中、お時間をいただき、ありがとうございました。学級担任からも、「子どもたちの、ご家庭での意外な姿をたくさん知ることができ、気持ちのうえでも距離が近くなった。」「保護者の方と共通理解ができて良かったし、楽しい時間だった。」「学校で活躍する姿をお伝えし、安心していただけた。」などなど、たくさんの喜びのコメントを聞いております。もちろん、子どもがこれだけたくさん集まる場所が学校ですから、プラスの話ばかりではないと思います。ただ、「どんな内容でも、子どもを真ん中にして、保護者の皆様と学級担任が向き合って話ができる。」という状況は、決して当たり前ではありません。この「西丸子だけかもしれないありがたい状況」への感謝の気持ちを、職員一同、忘れずにいたいものです。

さて、今、校内に設置された七夕の笹飾りには、子どもたちの思い思いの願い事が書かれた短冊が飾られています。今年もPTAのOBの方に笹をお譲りいただきました。毎年、ありがとうございます。将来の夢、現在の目標などが書かれたたくさんの願い事を見ていますと、当たり前のことですが、「子どもは未来に向かってる。」ということに改めて感じます。その他に目を引いたのは、「クラスの友達と仲良くできますように。」「友達と平和に過ごせますように。」「友達が10000人できますように。」など、友達に関する願い事や、「家族で平和に過ごせますように。」「お母さんの病気が治りますように。」「おばあちゃんのくらしがよくなりますように。」など、家族に関する願い事です。子どもなりに、コロナ禍を経て、「人とかかわり」「健康」「平和」などの大切さを実感しているのかなと、子どもたちの優しい気持ち、素直な気持ちに触れ、つつい良い方に深読みをしてしまいます。「子育てがたいへんな時代」と言われる中、子どもたちがこのように美しい心でいられるのは、ご家庭の愛情、ご努力の賜物であると、改めて思いました。そして、これが前述の「ありがたい状況」にもつながっているように感じます。ともあれ、「子どもたちの願い事が、全部叶いますように。」そして、「もうすぐやって来る長い夏休みが、どうぞ皆様にとって、有意義な時間となりますように。」さらに、「長い休み明けも、子どもたちが元気に登校できますように。」などなど、心から願っております。